

☆中村学校開校記念山行☆

- メンバー:藤原、中村、峯
- 日時:2013/10/13
- 行程:富士山駅→浅間神社(東海自然歩道)→長池山→大平山→石割山→二十曲峠→池ノ平→東桂駅

昨春の入部以降、私も数々の山に登ってきた。本間さんらとの丹沢縦走に始まり、昨夏には昨今話題沸騰の富士山を制覇、直近では、八ヶ岳連峰を成す硫黄岳にも訪れた。こうして過去の山行を振り返ると、今まで本当にあつという間だった。

そして先月、HUHACのメーリスで“中村学校”が開校されるとの報を受け、スケジュールの空いていた私は、その開校記念登山に参加することにした。

去る2013年10月13日。私は、OBの中村&藤原両先輩にお伴させていただくという形で、山中湖畔の山々を練り歩いて来た。事前に「平地が多い」との告知を受けてはいたものの、その割合は予想を遥かに上回り、ほとんどが舗装道を行くものであった。本格的な登山靴で参戦してしまった、私の行く末やいかに。

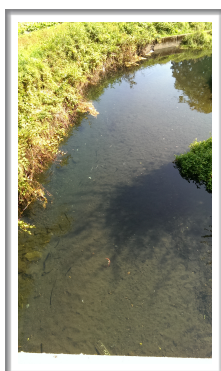
①富士山駅→浅間大社

中央線の高尾駅で河口湖行きの列車に乗り換えた私は、車内で中村さんと合流した。この時点で藤原さんから「乗継失敗により少し遅れます」との報を受け、先に2人だけで富士山駅をスタートすることにした。歩きの俊足を持つ藤原さんであれば、あつという間に我々に追いつくであろう、というのは中村さんの予想である。

右はスタート地である富士山駅の写真だが、2011年6月まで「富士吉田駅」を名乗っていた。しかし翌月、駅ビルのリニューアル完了に合わせて、現駅名へと改称された。これはJR九州の「ななつ星 in 九州」を手掛けた水戸岡鋭治氏のデザインということで、私は故郷に帰った思いがした。

閑話休題。富士山駅を出発した我々は、車通りの多い舗装道を歩き続けて浅間大社を目指す。ゴールの東桂駅には17時を目安に着きたいので、ペースも速い。懸命に歩く。藤原さんは、まだ電車の中だろうか。

▼臙脂色の鳥居。



②浅間大社→長池山

歩みを進めるにつれて車も少なくなり、田畑が目につくようになった。この辺りがいわゆる「忍野八海」にあたる。名水の里として知られる忍野八海では、富士の雪解け水が豊富に湧き出る。川の水も澄んでいて美しい。魚影がはっきりと見える。ここで遅れてやって来た藤原さんと合流。私と中村さんよりも1時間のビハイ



▲大平山頂から富士を望む。裾野が広い。

ンドで出発したにも拘らず、早くも追いついてしまうスピード、恐るべし。

③長池山→大平山

アスファルトから山道に入ると、土の柔らかさ・優しさがよくわかる。重厚な登山靴で山行に臨んでしまった私にはありがたいことこの上ない。

大平山に到着すると、一面にススキが揺れていた。眼下には山中湖が望め、正面には富士山が構える。その頂に雪を被るまでまもなく、といったところだろうか。やっぱり“富士山”といえば、白と青のコントラストが美しい冬の富士山を連想するし、そちらの方がしっくり来る。夏山の富士は形こそ綺麗だが、まるで着物を剥がされたような印象を受ける。

④大平山→石割山

大平山からは、平尾山を経由して石割山を目指す。文字通り、今回の山行のピークである。途中、平尾山にほど近い場所ではパラグライダーのトレーニングが行われていた。なだらかな傾斜と抜群の眺め。この日は風も心地よかった。確かに、この手のスポーツには最高のロケーションだ。



⑤石割山→二十曲峠→池ノ平→東桂駅

石割山の頂上を過ぎれば、あとは下山の一途。二十曲峠を過ぎると、再び林道へ出る。幅員は狭く、乗用車1台がやっとの舗装道だ。木々に囲まれたこの道を淡々と下っていく。

根気強く歩き続けると、やがて民家がちらほらと見えてきた。日没はとうに過ぎ、辺りは真っ暗である。街の灯を頼りにして、一行は駅を目指した。そして無事に到着。久しぶりに文明を目にした。ホッ。

おわりに

山行を終えた後、八王子で本間さんが慰労会を開いてくださった。駅ビル上の中華料理屋で乾杯。この山行を終えたことで、私は中村学校の生徒に“なってしまった”らしい(笑)。現役部員は私1人での参加だったが、面倒見の良いOBの方々に恵まれたな、ということに改めて実感した。1日で実に35km強もの道のりを歩きとおした達成感も大きかったが、この後数日間、私は足全体の痛みに苦しみながら生活することになったのは、言うまでもなからう。

最後に、山行を企画してくださった藤原さん、本間さん、中村さんの各OBに感謝の意を表して、山行記を締めくくりたいと思う。どうもありがとうございました。

文&写真：峯 弘卓